

# ケモミニセンキ 守

- 1
- 2
- 3 トリック1：いつもの関係
- 4
- 5 :(正面10センチ)
- 6 //(全体的に早口ではなく、淡々とした感じ)
- 7 ・(説教くさい感じだが心配している)
- 8
- 9 全く…いい加減学んで欲しいんだが。
- 10 これで何回目だったか？
- 11 無駄な傷を作って帰ってくるのは。
- 12 毎回診察と治療をしなくてはならない私と、
- 13 自分の体の負担を考えた事はないのか？
- 14 そもそも君は獣人では無く脆弱けいじやくな人間なのだから…
- 15 おい…ちゃんと話を聞け。
- 16 これは君を思ってて言い聞かせているのだと分らないのか？
- 17 それともなんだ？私の手を毎回煩わせて過労死させる気か？

18 そうなったら勿論君も後を追ってくれるんだろうな？

19 まさか私を一人で行かせる薄情者が私の幼馴染なはずが無いからな。

20 分かったなら話を聞け。

21 はあ…そもそも何故君まで故郷から出てくるんだ…

22 私の徴兵期間が終わるまで待ってればいいだろうに、

23 現に私は軍医を務めているのだから身の危険は無い。

24 なんの問題も無かったはずだったが、

25 徴兵義務ちへいぐうの無い、人間の君が志願兵としてやってくるとはな。

26 おまけに私の知り合いだからとあんな部隊に…

27 こうして君と顔を合わせるのに不満があるという訳では無い、

28 無論今も悪い気分ではないが、毎回傷を負って帰ってくるなら話は別だ。

29 特殊作戦部隊の専属医として務めているつもりだが…君以外が訪れた記憶が無い、

30 最も君以外の隊員は皆獣人なのだから仕方ないが。

31 まさかハーレム気分で浮かれているんじゃないか？

32 私以上に君を理解し、その価値を理解している獣人が他にいるとは思えないが、

33 もしそうであるなら、君は魅力的で知的な獣人であり、

34 故郷を同じとする幼馴染の価値をもう一度確認する必要がある。

36 // (終業時間)

37

38 ん、もう定時か。

39 残念ながら残業代は出ない、だがもう少し話そうか。必要だろうか？

40

41 トリック2：最適解☆

42

43 :(正面10センチ)

44 ・(少し呆れ気味)

45

46 はあ…その腕はどうした。

47 どう見ても折れているように見えるのだが。

48 それとも新しいファッションのつもりか？

49 よく似合っている。あとで記録に残そう。

50

51 ・(自分が頼られなかった事による嫉妬)

52

53 で、その処置は誰がやった。民間の医者か？

54 私は私に手間を掛けさせるなど言った訳じゃない、怪我をするなど言ったのだが。

55 今度は大怪我を負った拳句、他所の世話になっただと？

56 心底呆れた、今すぐそのギプスを外そうか、私が見る。

57

58 // (主人公…なんで?)

59

60 何故？それは君の傷は私が見る決まりだからだろうな。

61 ルールに疑問を持つのは暇人か革命家の仕事だ、医者や軍人の仕事じゃない。

62 早く出せ。

63

64 ∴ (右耳5センチ)

65 ・ (怪我の診察)

66

67 ふむ…完全に折れた訳ではなさそうだな。

68 前腕の不全骨折だろうか…精密検査をしないと詳しい事は分らんが。

69 少なくともヶ月は自由には使えん。

70 利き腕がこれでは不便だろうが、治るだけ感謝しろ。

71

72                   :: (正面5センチ)

73  
74                   他にも負傷箇所がないか確認する、脱がすぞ。

75

76                   ・ (主人公…え〜)

77

78                   黙れ、元より君に拒否権などない。

79                   それともその腕で抵抗するか？

80                   仮に健康体であったとしても私に敵<sup>かな</sup>う訳はないが、

81                   安心しろ、私は幼馴染みだ。

82                   今更君の素肌にかかと思う訳がなからう？

83                   だから見せるべきだ、勿論これは医学的な根拠に基づいている。

84                   納得できたか？では早速始めよう。

85

86                   // (脱がす)

87                   ・ (ちよっと嬉しい)

88

89                   まあ…目立った外傷はなさそうだが…

90 念の為だ、触診を行おう。

91 触れるぞ、痛みや違和感を感じたら言ってくれ。

92

93 ……(左耳のセンチ)

94

95 ふふっ…：役得、と言うやつか。

96 何、ただの独り言だ。

97 もう少し密着しよう。

98

99 // (主人公…胸が当たって慌てる)

100

101 ん、どうした？どこか痛むのか？

102 ああ…胸が当たってしまったか。

103 別に気にするような大きさでもないと思うが。

104 触りたいなら触ればいい、遠慮するな。

105 下半身もやはり診察するべきだろう、

106 負傷の見逃しは命取り、これは合理的な判断だ。

107 そう恥ずかしがるな、私と君の仲だろう？

- 108 それとも何か不都合でも？
- 109 だとすればそれは一体…
- 110 おや？
- 111
- 112 // (股間の膨らみを発見する)
- 113 ・(満更でもない)
- 114
- 115 …勃起か。
- 116 いや、気にするな。生理現象だろう？
- 117 何かしらに性的興奮を感じ、海綿体に血が集まってしまったただけだ。
- 118 それを責め立てるのは酷、医者として、女としても失格。
- 119 それにこの状況、必然とも言える。
- 120 一つ仮定を立て、それが正しければな。
- 121 そう、君がケモノーだと。違うか？
- 122 否定も肯定と捉える、その隆起した男性器を私は信じよう。
- 123 ならばどうすべきか、放置は論外、可哀想だからな。
- 124 君は利き腕を負傷、自身で処理するのは難しいだろう。
- 125 なら獣人の売春婦でも呼ぶか？ここに？馬鹿馬鹿しい。

126 つまり、最も合理的なのはその勃起の責任者であり、

127 君の性処理を行う事になんら抵抗もない私が処理を行うのが最適解か。

128 決まりだ、早速行おう。

129

130 : (正面5センチ)

131

132 だが直接触るには時期尚早、コンドームを買ってくる、サイズを教えてください。

133

134 // (主人公：気まずそうにしてる)

135

136 自分の大きさも把握してないのか？

137 しかし問題ない、今確認すればいいだけだからな。

138 見せてみる、どうせこれから私がシゴくんだ。

139 もったいぶってどうする？

140

141 ・(普通にたじろぐ)

142

143 ぐれ、な……！

144 こゝ、これが君の…いや、初めて見る訳ではないが…

145 昔のことだ、時々風呂場や着替えを覗いていた。

146 当時はとても可愛らしい物だった筈だが…

147 その、これは×Lサイズで間違いないだろう。

148 買い出しに行ってくる。

149 な…！これでMサイズなのか？

150 冗談…ではなさそうだが…

151 …せめて「サイズにしないか？

152 むむ…分かった、従おう。

153

154 // (買い出しから戻ってきた)

155 … (正面10センチ)

156

157 今戻った。

158 ほら、領収書だ。半分でいい、いつか払え。

159 流石に経費では落とせんからな。

160 さて、焦らされては君もたまった物じゃないだろう？

161 コンドームの仕様は確認済みだ、直ぐに装着させる。

- 162 ん…これだけしか入っていないのか…
- 163 ぼったくりだな、次からは業務用の物を注文しておこう。
- 164 まあいい、着けるぞ。
- 165 …雄の象徴とは言うが…ここまで猛々ただけしいか…
- 166 こちら側が表だな…こう被せて…くるくると。
- 167 よし、完璧だろう。
- 168 しかし本当に大丈夫か？
- 169 窮屈そうに見えるが…
- 170 いや、私がさっさと性処理を行えばいい話だったな。
- 171 では…握るぞ？
- 172 おお…コンドーム越しに熱気と鼓動を感じる…
- 173 カ加減は大丈夫か？
- 174 問題ないなら上下に摩っていくが。
- 175 分かった、最初はゆっくりにしよう。
- 176
- 177 // (手コキ ゆっくり)
- 178
- 179 どうだ？痛くはないか？

180

181 // (主人公…痛くはない)

182

183 ふむ…

184 物足りなそうだな。

185 何が足りない？言ってみろ。

186 オカズ…そうか、盲点だったな。

187 物理的快感以前に視覚的、及び精神的な興奮が足りないのか。

188 雌の象徴、胸や尻がそれに相応しいのだろうが生憎私のそれは貧相だ。

189

190 // (主人公…それがいい！)

191

192 ん、私の体でいいのか？

193 しかし…妥協は良くない。少し待て、考えよう。

194 ……じつじついな、私の体型は君も良く知っているだろう？

195 胸の膨らみは認識するので精一杯だ。

196 雄の欲情を煽るよい雌の体では無い。

197

198 ・(内心嬉しい)

199  
200 …もの好きなんだな、分かった。それなら期待に応えるべきか。

201 しかし、忠告しておくがこのような体型が好き。とは公言しないことだ。

202 私だけが知っていれば問題無いだろう？違うか？

203 理解したならいい、上裸になれば良いか？

204 は？はだけさせるだけ？

205 いや、知っているな。これも性癖と言うやつか。

206 性的嗜好は多岐にわたる、その全てを理解するのは難しいが、

207 君の求めるものは理解して行くべきだ、当然の義務だろう。

208 だが、それは君も私の性的嗜好に理解を示すべき。と言うことでもあるのは

209 言わずとも理解しているだろうな？相互理解はこういった関係には必須だろう。

210 そもそも君と私の関係をはつきりさせるべきだが…少し話が逸れたな。

211 今はだけさせる、待っておけ。

212

213 ・(少し恥じらう)

214

215 まあ、こんな物だろう。

- 216 どうだ？もっ少しずらせば乳頭も見えるが…
- 217 見えなくても構わないのだろうか？
- 218 ん…これは…
- 219 言わずとも分かる、より君の男性器がより強い反応を…
- 220 ふふ…それとも…
- 221 ちんぽ、とでも呼んだ方がいいか？♡
- 222
- 223 // (主人公…おちんちん)
- 224
- 225 む…無難におちんちんでいいと…しかしだな、
- 226 あう…分かった、それで行こう…
- 227 しかし私のキャラクター的にはちんぽの方が合っていると思うが…
- 228 君の望みだ、仕方ない。
- 229 …射精をさせる事に集中しよう。
- 230 …私は黙っている。
- 231 手だけ動かそう、必要なら指示を出せ。
- 232 可能な範囲で従う。
- 233

234 ・(ちよつと声が漏れる、間が長め)

235

236 ん…

237 熱いな…

238 おお…

239 ん…わわっ…

240 おい…今…その…おちんちんが痙攣しなかったか？

241 大丈夫ならいいが…

242 無理はするなよ？

243 ん…

244 ん…？もう少し早めにか…

245 こっ…か…？

246 ふふ…

247 恍惚トランスとした顔をして…いいものが見れた。

248 なんだ…あまりこっちを見つめるな…

249

250 // (主人公…そっちが見つめてくるから…)

251

252 私は良いんだ、その権利がある。

253 せっかくなのだから体を見れば良いと思うが。

254 私の顔なんていつでも見れるだろ。

255 ふふ…

256 ん？

257 今跳ねたよな…おちんちん…

258 本当に大丈夫か？

259 そうか…そろそろ…なんだな。

260 より手の動きを早めよう。

261 その方がスムーズに射精を促せるだろ？

262 ふふ…そう堪えようとするな。

263 快樂に正直な者の方が私は好きだ。

264 可愛げがある。

265 ふふ…出すんだな…ああ、構わん好きに射精してくれ。

266 より一層膨らんできた…射精の前兆だろうか。

267 あっ…

268

269

// (射精)

- 270
- 271 おお…これが…射精…
- 272 なんだか、見てはいけないものを見てしまった気分だ。
- 273 しかし…ふふ…君のその、とても幸せそうな顔、見れて良かった。
- 274 コンドームの中に閉じ込められているのが実に惜しい。
- 275 直で見たかったな、なんなら私にかけてくれてもいい。
- 276 ん、どうした？
- 277 疲れたのか。
- 278 射精後不応期しちせうごふおうき、俗に言う賢者タイムだな。
- 279 気にするな、別にそのまま寝てもらって構わん。
- 280 どうせ君以外ここには訪れない。
- 281 使用済みのコンドームはこちらで回収させて貰う。
- 282 君の精液は色々あいたと検める必要があるからな。
- 283 今回はいい経験だった。また勃起してしまったらここに来るといい。
- 284 いつでも相手をしよう。
- 285 一応言っておくが…間違っても他の雌で解消しようなどと思うなよ？
- 286 理由？何度も言わせるな、疑問を持ったところで私達は理理由から解放されるのか？
- 287 無駄なことに思考のリソースを使うのは得策では無い。

288 前提条件から議論するなどそれこそ暇人がやることだ。

289 決まりの中で最適をアプローチしていけばいい、

290 君の性欲処理は私が行う。

291 これは生物における終着点が生であることと同義だ。わかったな？

292

293 トラック3：反戦派勢力排除

294

295 ……(正面10センチ)

296 // (このトラックは全てソリスです、主人公との関係はただの同僚)

297 ・(汚れ作中、前作の発作状態がデフォルト)

298

299 さ、始めよっか。

300 周囲の警備は既にオルファンが制圧した。

301 退路はルイナが確保してくれてる。

302 ……そっさと終わらせて、早く帰ろ。

303 いつも通りゴミ掃除をすれば終わりだけど…

304 今回のゴミは反戦派の活動家…

305 こいつらが民衆を唆すから戦争は長引くつてのに。

306 争い事が嫌なら平和を争いで勝ち取るしかない。

307 こんな簡単な事がなんで分からないんだろ。

308 はあ…ターゲット単体なら助かるんだけど。

309 …最悪、他に誰がいる。

310 まだ幼い、ほっといても大丈夫かな？

311 …ダメだろうね。

312 いいよ、こっちは私がやるから、

313 あんたはターゲットを始末してきて。

314 そっちの方が何倍も楽でしょ…

315 じゃ、また後で。

316

317 先輩、私は…また一つ罪を重ねます…

318

319 // (任務を終えて)

320 ・(独り言)

321

322 はあ…幼い子はすぐ泣いちゃうからな…

323 こっちが悪者みたい。

324 何言ってるんだろ…私、死ねばいいのに。

325

326 // (主人公に気づく)

327

328 ああ、あんたも残ってたんだ。

329 書類はルイナに任せとけば大丈夫だから。

330 もう帰っていいと思うよ、珍しく怪我してなさそうだしね。

331 ふくん、一応顔出してくんだ。そっか、

332 ファーシャちゃん可愛いしね…あはは…

333

334 // (主人公…誤魔化す)

335

336 え…まさか本当にそんな感じの関係なの？

337 意外というか…あんたってそういう…

338 でも別に、私達獣人目線からすれば悪いものじゃないよ。

339 ふふ…ファーシャちゃんによろしくね〜

340

341 // (人間と付き合ってる獣人の存在を知って気になる)

342

343 そっか…なら…まずは先駆者に聞くべき、か…

344

345 トリック4：いつも、からの脱却

346

347 …(正面10センチ)

348

…(内心嬉しい)

349

350 つまり、君は擦り傷ひとつ無い健康体にも関わらず、

351

決して暇では無い軍医の元へ訪れたと。

352

なぜわざわざ私の元へ足を運んだ？

353

自分の幸運に感謝し、たまの休暇を満喫すればいいと考えるのが合理的だろう。

354

だが、それはあくまでここ、即ち私を唯の医者だと仮定した場合。

355

自身に負傷の自覚がなくとも、

356

優秀な専属医の検査を受けるのが合理的。

357

君にしてはいい選択だ、席に着くといい、多忙だがもてなそう。

358

359 …(主人公のメンタル面の不調に気づく)

360

どうした、随分と…

361

362 …何かやらかしたのか？

363 世の中大抵のことはなんとかなる。

364 言ってみろ、私が解決してやらん事もない。

365 無理でも一緒に頭くらいなら下げてやっても構わん。

366 …言えないのか？

367 まあ、君らというか、私達の部隊が最近きな臭いのは私でも分かる。

368 だがこれは戦争だ、多少倫理的に不味いことをしたって誰も責めん。

369 戦時のいざこざを攻め立てるのはいつだって平和ボケした暇人だけだ。

370 命のかかった場で倫理や法は機能しないと、数秒考えれば想像つくと思っただがな。

371 だからそう追い詰めた顔をするな。

372

373 ・(力になれず歯痒い)

374

375 …不器用ですまない。

376 私は純粹に君が顔を出してくれて嬉しかったのと、

377 落ち込んだ顔を見るのが辛かったんだ。それを伝えたかった。

378 それとも…伝わっている上で私ではダメなのか？

379 そうか…

380 私は…そんなに役立たずなのか。

381 なあ…君は…私を何だと思っているんだ？

382 私が君をどう思っていると…

383

384 // (お互いの愛情を確認)

385

386 …私の気持ちなど、君はずっと前から知っていただろ。

387 それに、君もきつとそうである事に気づけない程私も鈍くない。

388 …私たちはこの関係に少し甘えすぎだ。

389 次の休日は私に使え、出かけよう。

390 そこで改めて…な？

391 行き先は当然君が決めるべきだろう、思考のリソースを私に割か<sup>き</sup>せるなよ。

392 その日の思考リソースは君の横顔で埋める予定だからな。

393 …今から楽しみだ。

394 とりあえず…今日はゆっくりして行ってくれ。

395 私たちには、その程度の慎重さが必要だろうからな。

396

397 トリック5：最良の関係

398 // (数日後、デート当日)

399 ∴ (左耳15センチ)

400 ・(ちよっと緊張している)

401

402 おい…こつちだ。

403

404 ∴ (正面10センチ)

405

406 やっと来たか、少し遅かったんじゃないか？

407 まだ10分前か。

408 あ、ああ…今日は私服だ。

409 かと言って、別に着飾れるような服は無かった。

410 田舎娘そのものだな。

411 期待に添えなかったら申し訳ない。

412

413 ・(褒められて照れる)

414

415 ……世辞は……

416 今日は君がリードしてくれるんだろ？

417 早く案内してくれ。

418

419 ……(右耳10センチ)

420

421 二人で出かけるのは久しいな。

422 ……ここに来てからは初めてか。

423 どうだ？王都は。

424 人間の君にとっては居心地くこちが良いと思うが。

425

426 ……(主人公…微妙)

427 ……(不満を漏らす)

428

429 そうか、意外だな。

430 私も正直に言えば…あまり良くない。

431 ……この獣人差別には随分と不快にさせられる。

432 ベンチ一つにわざわざ獣人禁止と書く方が手間だろうに。

433 それに、王権派や反戦派の人間がここには大勢いる。

434 政治にはさして興味は無いが…

435 軍人としては…理解しかねる。

436 特に王権派はもう終わった物だと思っていたんだがな。

437 先代の国王…

438 あれは歴史に名を残すだろうな、王家の歴史に終止符を打った張本人だ。

439 一方的な侵略戦争をけしかけたと思えば、直ぐにくたばるとは。

440 王家の血は事実上途絶えた。

441 直接的な繋がりを持つビリタス家を新たな王家として帝政の存続を目指す。

442 というのが今の王権派という事だが…

443 まあ…無理だろうな。ビリタスは獣人の血が強すぎる。

444 獣人が産まれる度、厄介払いのように国外へ嫁がせるのは中々滑稽で笑えるがな。

445 あのビリタス・ウルーラもそうなるのだと思うと…

446 ふふ…酷く笑えてくる。

447 あれと結婚させられる男には深く同情してしまう。

448

449

450

451 反戦派は…まあ、良いんじゃないか？

452 きっと人々はお花畑で手を取り合えると信じているに違いない。

453 素敵な事だ。愚かだが。

454 …そう言えば最近は見かけないな。

455 よくそこら辺で騒いでいた気がするが…

456 まあ、いないに越した事はないか。

457 しかし…そうなると軍部の増長が怖いが…

458 何事も一強という物は避けるべきだと私は考える。

459 この国が軍事国家路線を進めるは確定事項だろうが。

460 しかし、反対勢力の存在は必要だ。

461 王の独裁がこの戦争を始めたのだからな。

462 その尻拭いは私達軍人が行うが。

463 仮に国の舵取りを間違え、敗戦すれば…

464 その先は…帝国の崩壊だ。

465 …現状、獣人の人権が認められている国は少ない。

466 あまり考えたくはないな。

467 ……すまない、せつかくのデートだというのに…

468 もう少し明るい話題にするべきだった。

469 …その、ずっと言いたかったんだが…

470 私を追って来てくれて…ありがとう。

471 君が居なかったら…きつとここでの生活は辛い物だった。

472 ふふ…君も謙遜するんだな…

473 ところで…何処へ向かっているんだ？

474 勿論どこでも良いのだが…

475

476 ・(皮肉)

477

478 …国立公園か、あそこは良い場所だ。

479 自然に溢れていて故郷を思い出す。

480 ただ獣人の立ち入りが禁止されている事を除けばな。

481

482 ・(不安げに)

483

484 人間と同伴なら許可されるのか？

485 しか…

486 周囲の人間はあまり良しとしないだろう…

487

488 ・(嬉しそうに)

489

490 ん、手…？

491 ふふ…繋いでくれるのか？

492 ああ…勿論。

493 喜んで。

494 ふふ…いつ以来だ？これは。

495 当時は病弱で…あんなに細かったというのに。

496 随分と遅たぐまじくなったな。

497 なあ…この手を離さないと、約束してくれるか？

498 そうか。では…今から私達は…

499 恋人…いや、番つがひだ。

500 ほら…もう片方の手も…

501

502 ・(正面5センチ)

503

504 ふふ…私にだって羞恥心はある。

505 だから顔を逸らすな。

506 ふう…

507 私は、生涯君に尽くす。

508 君は…？

509

510 …その言葉、信じているからな。

511

512 ・(嬉しそうに)

513

514 ふふ…では、早く行こう。

515 君の横顔から、しばらく目を離せそうにはないが。

516

517 トリック6：恋する陰陽

518

519 // (ソリスとファーマーの掛け合い)

520 :: (ソリス 右斜め前10センチ)

521 :: (ファーマー 左斜め前10センチ)

522 // (ソリスがファーシャの元へ訪れる、関係は同僚)

523

524 ふっふっ失礼します。

525

526 ・(主人公じゃないと知り興味を無くす)

527

528 …なんだ君か。はあ…大した怪我ではないだろう。

529 唾でもつけておけ、時期に良くなる。

530

531 ・(内心イラっとしてる)

532

533 貧乳の癖に態度はデカいですね…

534 呸、いっせー

535 えへへっ少しお話ししませんか？

536

537 私は暇じゃない。

538 それ以上に言葉が必要か？

539

540

む…そりゃ残念。

541

あくあ、ファーシャちゃんの彼氏さんから色々聞いてるんだけどなく

542

教えてあげようと思ったのに。

543

544

…気が変わった。少し話そうか。

545

まず最初に聞きたいのだが、あいつとの交際関係をどこで知った？

546

まさか自慢してたのか？

547

だとすれば大変素晴らしいことだ、褒めてやらんとな。

548

549

あはは…なんとなくそう思っただけですよ。

550

本当なんだ、いいな…

551

552

ああ、いい男だ。

553

残念ながら一人しかいない、他を当たれ。

554

時には妥協も必要だろう？

555

私はしないが。

556

557

いや別にあんたの彼氏さんがいって意味じゃなくて…

558 ただ私もその…そういう関係に興味があつてですね。

559 その、一体どういった馴れ初めで…

560

561 ああ…君も年頃の雌という訳か。

562 だが期待には応えられんな、私達の関係に再現性は無い。

563 同じ村に生まれた。田舎だ、ここより獣人に対する差別はだいぶ薄い。

564 あいつは病弱だった、だから私は医者になった。

565 私は徴兵された、だからあいつは軍人になった。

566 言わば運命だ、何かが割り込む余地は無い。

567 私たちは番（おが）、それに私はジャツカルの獣人だからな。

568 パートナーに対する執着が非常に強い一族。

569 つまり生涯そうなる。

570 確かルイナにも男が居ただろ。

571 そっちを当たれ。

572

573 番いって…田舎の獣人ってそう言う感じなんだ…

574 むぐでも羨ましい…私も先輩と…

575

だけど、先輩がケモナーさんかもわかりません…

576 あと、ルイナちゃんはそのデカパイがある時点でもっと再現性がないです。

577

578 その先輩、とやらが何者か知らんが、

579 そもそもケモナーという概念は性的指向を表す物じゃない私は考える。

580 まず、前提として獣人は危険だ。

581 のさばらせておけば遺伝子汚染を進め人間の雌は消えるだろうな。

582 推察するにこの獣人を好む男は変質的、という風潮は作られたものだ。

583 そもそも、私たちには優れた身体能力とこの耳と尻尾があるんだぞ？

584 どう考えても猿同然の人間の雌に魅力で劣る訳が無い。

585 ならば私たちを対等に見れる人間、と言っただけでケモナーに該当するはずだ。

586 彼らが獣人側に流れていけばやはり人間の雌はいずれ絶滅する。

587 滅ぶべき物を強引に維持しようとする歪な社会構造…

588 破綻はたんした設計の、妥当な末路だ。

589 その先輩とやらが君と仲良くしてくれているのなら、恐らくそうなのだろう。

590 が、そんな事はどうでもいい、あいつの話を聞かせろ。

591 私の事について何か話してなかったか？なんだって構わん。

592

593 そっか…なら私も先輩と…えへへ…

594 感謝しますよ！ファーシャちゃん！

595 えっと…彼氏さんのお話ですか、うーん…

596 最近は疲れてそうですよ。

597 まあ、私もですけど。

598

599 ああ、君らのストレス値の異常については私も把握している。

600 最もオルファンとルイナは平気そうだな。

601 一体何をしている？

602 私の管轄外だが、あいつに何かあったら決して許さん。

603

604 ……言えません。

605 ただ、少し疲れちゃいました…

606 もう…辞めちゃいたいな…

607 最近、物忘れも激しくなってきたって…

608 自分が何してるのかわかなくなっちゃうんですよ。

609

610 そうか、では辞めたらどうだ？

611 そこから飛び降りれば足の骨で済む。

612

613 ・(ソリス 発作)

614

615 勝手なことを言わないでください。

616 これからもっと殺しますから…

617 最後は自分を…あはは…

618 そもそも今更逃げる事なんて許されませんよ。

619 ファーシャちゃんは私を 噛むのか 咬かそうとしてるんですか？

620 この罪を裏切れ、と。

621 月が決して私を許しませんよ…

622

623 ・(発作終わり)

624

625 …あくなんだっけ？砂漠ペンギンの話でしたっけ？

626

627 会話は苦手か？私は得意なのだから君がそうなのだろうな。

628 ただ口を開けて雑音を鳴らす事を会話というのは10代までにしておけ。

629 君はもういい歳だろ。

630 …これはイカれてるのか？

631 断定するにはまだ早いか。

632

633 いやーでも助かりましたよ！

634 今後の参考にします！

635 あゝそういえば、用事があるんですけど。

636 砂漠ペンギンの話はまた今度と云うことで！

637 それでは〜

638

639 どう見てもイカれてる。

640 個人的には精神病患者など隔離してしまえばいいと思うが

641 …少し様子を見るべきか。

642 あ…クソが、あいつの事を聞きそびれた。

643

644 トリックフ…墮天の飛翔☆

645

646 // (同僚(ルイナ)の遺体の検視)

647 :(正面20センチ)

648 ・(ショックを受けつつも仕事と割り切れている)

649

650 遺体の識別コードは…

651 …ルイナか、意外だな。

652 死亡推定時刻は…ふむ…

653 防御創ぼうぎやうは見られんが…致命傷を負ってから必死にもがいたようだ。

654 止血を試みた形跡が見られる。

655 だが…ここを刺されれば、獣人であれどう足掻いても死ぬ。

656 明確な殺意があつたみたいだな。

657 …何だ、これは。

658 何か握り込んでいる。

659 獣人用のピアス…？

660 形状が一致しているし、

661 自分の耳から引きちぎったのか。

662 …何故？

663 犯行に使われた凶器は…官給品かんきゅうひんか。内部の犯行と見て間違いなし。

664 防御創が見られない事にも納得がいく。

665

666 // (ポチシリーズは強化人間的なやつです)

667

668 しかし…ルイナはPOCHE(ポチ)シリーズの後期型だ。

669 正面から殺し合えば負けるはずが無い。

670 不可解な事が多すぎる、何があったのだろうか。

671 ルイナ…君らしく無い最後だな。

672

673 ∴(正面15センチ)

674 // (夜中に主人公の寮へ訪れる)

675

676 あゝすまない、私だ。

677 今日は業務が長引いてな、だが後日に回せる程悠長な要件でも無い。

678 まあ、とにかく無断で人間の寮に忍び込んだ。

679 見つければ処罰されてしまう、入れてくれ。

680 ああ、失礼する。

681

682 ・(心配している)

683 ∴(正面10センチ)

684

685 その…大丈夫か？

686 勿論私も事情は把握している。

687 ルイナ：優秀な軍人だった。実に惜しい。

688 遺体を見たがあれは…

689 しかし、君が無事でよかった。まだ間に合う、今すぐこの部隊…

690 いや、軍を辞める。

691 君らは汚職を働いているのだろうか？

692 恐らくとびっきりの戦争犯罪だ。違うか？

693 別に君が法を犯し、人を殺そうが私はどうでもいい。

694 私も法なら沢山犯した。君は言われた通りに働いただけだろうか？

695 何があっても私はお前の味方だ。

696 だが、このままでは君が壊れてしまうだろう？

697 何も心配する事はない、問題は全て私が処理する。

698

699 // (断られる)

700 ・(少し懇願する感じ)

701

702 …つまりん意地を張らないでくれ、君と言い争いはしたくない。

703 これは確証を持って言えるのだが…

704 ルイナを始末したのはソリスだろうな、何があったのかは知らん。

705 だがイカれてるの確かだ、あいつの内心は知れたもんじゃない。

706 君は人間だし帰る故郷もある。

707 世話だって私が見てやる。

708 なぁ…

709 もし、君がそうならば私は必ず後を追う。それを踏まえてくれ…

710 私を残すとは…そういう事なのだ。

711

712 ・(ほっとして温かい感じ)

713

714 …辞めてくれるのか？。

715 良かった…

716 はぁ…最初からそう言ってくれ…

717 君が首を横に振った時の絶望感と来たら…

718 だが…ありがとう。

719 君は辞表の用意だけをすればいい、私が届けておく。

720 辞めた後の進路に希望はあるか？

721

722 // (主人公…故郷で待ってる)

723

724 先に故郷へ帰るのか？

725 ダメだ、それでは私が寂しい。

726 帰る時は二人一緒だ。

727 しかし、そうなれば君の住居を新しく用意する必要があるな。

728 こうら一带は賃貸でも中々いい値段がする。

729 かといって離れ離れになつては意味がない。

730 よし。私の家に来るといい、狭いが一軒家を借りている。

731 寮生活は私には合わんからな。

732 君と同棲か。ふふ…

733 私の任期も数年程度だ、もう時期帰れる。

734 まだまだ若い。今孕むわけにはいかないが、

735 故郷へ戻ってから問題なく君の子を沢山孕める。

736 当然だ、私たちは番<sup>つが</sup>いだろ？

737 プラトニックな関係も嫌いじゃないが…

738 君に求められたいんだ。

739 別に今夜でも私は構わん。

740 君を心の底から君を信用し、愛しているからな。

741

742 ・(緊張して)

743

744 そうか、君も…

745 少し急だが…今更お預けは無しだ。

746 明かりは、消してくれ…

747

748 ・(正面5センチ)

749

750 まぢは…口付けを…

751 んっ…んん…

752 舌…入れるぞ…ん…

753 んん…ん…

754 ちゅ…ん…んん…

755 ん…んん…

756 ん…だめだ…もう何も考えられん…

757 早く押し倒せ。

758 上手くやれなくてもいい、君に抱いてもらえるなら…恐ろしく悪いことは無い。

759

760 // (押し倒される)

761

762 服は適当に脱がしてくれ、だが中身はあまり見てくれるな。

763 体には自信がない…

764

765 ・(褒められて満更でもない)

766

767 世辞は嫌いだ…

768 だが、それが本当なら…私は幸せ者だな。

769 君も早く脱いでくれ。

770 互いに全てを曝け出そうじゃないか♡

771 ふふ…ああ、そう少し待て。

772 痛み止め…では心許ないな、覚醒系の麻薬はあるか？

773 まあ、君が薬物セックスを嗜みそうにはないか。ないならモルヒネで構わん。

774 支給されているはずだ。後日返す、貸してくれ。

775

776 // (主人公…なんで?)

777

778 理由か？それは簡単な事だ。

779

私は痛みに弱い、この年になって何を言っているか分からんかもしれんが

780

嫌いなものは嫌いだ、むしろその方が私は自然だと思っがな。

781

そもそも痛覚など自分で体の状況を把握できるなら無い方がいいに決まっている。

782

しかし勘違いするな？君が私に乱暴をしようと思っているわけではない。断じてな。

783

だが私は処女だ。自慰行為の経験も無ければ異物の挿入などもつての外。<sup>ほか</sup>

784

私の様なケースの場合いくら君が気を遣っけてくれても処女喪失には痛みが伴う。

785

なら最初から副作用を受け入れてでも痛覚を飛ばしておくのが合理的だ。

786

転ぶと分かっているなら歩かずに這えばいい。

787

何、心配するな。私が薬の用法を間違えるはずがない。

788

挿入した途端泣き叫ぶ私を見たくないのなら先述の対策を行うべきだと思うが、

789

一応君の意見も聞くべきだろうな、どうなんだ？

790

791 ・(説得されるが、少し不安げ)

792

793 君が望むなら仕方ない、ある程度の苦痛は受け入れよう。

794 だが私が無理だと言ったら絶対に止めることが条件だ。

795 歯医者のように申告だけさせて続行すれば君は生涯私に恨まれることになる、

796 この条件でいいな？

797 ……すまない、こんな時まで。

798 だが…こればかりは怖いんだ、頼む…

799 では、いい。好きにしてくれ…

800 ……そうか、手の込んだ愛撫をしてくれるのか。

801 個人的な主観では私の膺うでは既に湿润しつじゆんしているが…

802 君がやってくれると言うなら喜んでお願いしたい。

803 ……いや、そこを舐めるのは…辞めておけ。

804 その、私は清潔せいせつにしているつもりだが…

805 しかし構造上仕方がない部分もある。

806 総合的に鑑みて、医者が推奨していい行為ではないと言うことだ。

807 それに…正直ここはあまり見られたくない。

808 そうだな、個人的にはキスやハグが望ましい。あれはきつといいものだ。

809 ハグにはストレス軽減の効果があると医学的にも考察されている。

810 実証するべきだろうな、早くしろ。

811

812 …(右耳のセンチ)

813

814 えへへ…

815 これは…どうにも口角が上がってしまうな…

816 君の体温が直に伝わってくる…

817 私のささやかな乳房もこれほど密着すれば多少は存在感があるものだろう。

818 確かに落ち着く…それと…

819 君に抱き締められただけで性的興奮が強まってしまった。

820 こうも単純だと少し照れてしまう…あはは…

821 今なら、多分指一本程度なら大丈夫だと思う…頼む。

822

823

824 // (指一本挿入)

825

826 んっ…ああ…大丈夫だ…少しも傷まない。

827 ん…ふう…

828 少し怖かったが…やはり君は信頼に足る男だ。

829 ふふ…

830

831 …(左耳のセンチ)

832

833 これ以上焦らしてくれるな…もうこれ以上濡れようがないだろ…

834 避妊に関しても心配するな、発情期では無い。

835 膈内に射精を行なっても妊娠する確率は極めて低いはず。

836 それ以上にコンドームの方が高く付く、あれは発情期の時だけ使用すればいい。

837 ふう…

838 では、一思いにやってくれ…

839

840 // (挿入、破瓜)

841 ・(結構痛がる)

842

843 うっ…！がが…うう…

844 はぁ…はぁ…

845 終わったのか？

846 そうか…

847 もっと上手くやれ…下手くそ…

848 はは…冗談だ、軽口を叩ける様な余裕がある。

849 流石は私の男だ。

850 ふふ…少しだけ離れてくれ、結合部を確認したい。

851

852 …(正面5センチ)

853

854 おお…すっかり君のものを啜え込んでいるな…

855 出血量も…まあこんな物だろう。想定の範囲内だ。

856 しかし違和感が強いな、圧迫感がある。

857 申し訳ないが激しく攻めるのは勘弁してくれ、

858 できればその…甘やかして欲しい…

859 元よりそのつもりだったか？

860 ふふ…これ以上口説いても意味はないと言っのに。

861 早くもう一度キスしてくれ。

862

863 // (キス)

864

865 んん…ん…

866 ん…ん…

867 まだ辞めるな…

868 んん…ん…

869 ん…ちゅ…んん…

870 ん…んん…

871 はぁ…はぁ…

872 ははは…糸を引いている、蜘蛛の巣に突っ込んだみたいだ。

873

874 // (心配される)

875

876 ん？ああ、痛みの程度か。

877 ふふ…心配してくれてるんだな。

878 そうだな、本音が君の喜びそうな回答、聞きたい方を聞かせてやる。

879 どちらが聞きたい？オススメは後者だろうな。

880 より良い性行為には互いのモチベーションが重要だ。

881 その為に場を盛り上げるための雄に媚びたセリフが重要と考えた。

882 だが、君に嘘をつくのはそれはそれで忍びない、君が決めてくれ。

883 本音か。聞いといてよかった。

884 まあ、率直に言うところこそ痛む。

885 どれだけ君が愛撫を徹底しようが痛い物は痛い。

886 安心しろ別に不満がある訳じゃない、問題があるとすれば私の方だ。

887 緊張しているんだ…これでは体が硬くなる。むしろ良くここまで解解してくれた。

888 そのだな…私だつて一端しっぽの雌だ。

889 初めて抱かれるとなればくだらん事を考えてしまう。

890 自分の体で君が満足してくれるのか…と。

891 これが不安で仕方がない。

892 この際だから聞くんが…どうなんだ？

893

894 //((主人公…いい感じ))

895

896 そうか…なら緊張も多少解れると言うものだ。

897 だが本当か？何度も言う様で悪いが世辞は好きじゃない…

898

899 ・(嬉しそうに)

900

901 ふふ…証明してくれるのか？

902 ああ、ぜひ見せてくれ。

903 ……どうした？微妙にモゾモゾと動いて。

904 腰を振りたいのなら別に構わないが…

905 優しく、ゆっくりならな。

906 違うのか？

907

908 // (射精)

909 ・(困惑している)

910

911 え、まさか射精しているのか…？

912 複雑だが…確かに安心した。

913 考えれば君も初めてなのだから、

914 まあ、色々あるのだろう。

915 責めはしない、もっとも君の早漏の言い訳に使われた気がしてならないが。

916 しかし、腰を振らずとも射精できるんだな。

917 躊躇なく膣内射精とは、万が一孕んだらどうするつもりだ？

918 私が締め付けすぎたのか…それは仕方ない…のか？

919 やはり君に堪え性がないだけな気がするが。

920

921 ・(嬉しそうに)

922

923 へえ…孕んでも責任を取ると。

924 それは当然だろう、番なのだから。

925 しかしはつきり言われるところ…なんだか来るものがある。

926 私は君の物なのだという実感が湧く。

927 …なあ、雄には睾丸が二つ付いているだろ？

928 ならば二発。連続で射精できると考えるのが合理的。

929 違うか？違うならなぜ二つ付いている。

930 片方破壊された際の予備と考えると同じ場所に置くのは些ちやか間抜けじゃないか？

931 だから私は今こう考えた。

932

933 ・(右耳のセンチ)

934 ・(欲情を煽る様な感じ)

935

936 うるさい雌を黙らせるためだと♡



955 あっ…ん…ふう…ふう…

956 大丈夫だ、痛みなどとつくに引いている。

957 快感すら感じている位だ。これは君次第だな。

958 私の嬌声が聞きたいのならよく励め。

959 あんっ…ん…はあ…はあ…

960 ん…んっ…んっ…

961 もう少し…奥…

962 そう…んっ…あんっ…あっ…あっ…

963 だ、だめだ…こんなの…バカになってしまっ…んっ…

964 ん…んっ…し、尻尾が…

965 邪魔かもしれないがあまり気にしないでくれ…

966 興奮すると暴れてしまっ…

967

968 ・(恥ずかしがって)

969

970 その…一応聞きたいのだが…

971 これも…可愛い…か？

972 ふふ…そうか…

973 私も雌…いや、女なんだな…

974 大好きだ。もっと私を喜ばせてくれ♡

975 頼む、激しくしてくれていいから♡

976 んっ…！あっ…あっ…あんっ…あっ…

977 ああ…んっ…君の精液と私の愛液が混ざって…

978 卑猥な音が…

979 んっ…あんっ…ん…んっ…

980 んっ…ん…あんっ…

981 んっ…はあ…はあ…

982 ああ、しっかり感じている…

983 んっ…快感が…

984 あっ…はあ…はあ…

985 なあ…私も…そろそろ…

986 一人は嫌だ…

987 一緒に…頼む…

988 あんっ…んっ…ふふ…

989 おちんちん、さっきより膨張してないか？

990 あっ…んっ…あんっ…はあ…はあ…

991 んっ…随分と激しいな♡

992 もう我慢できない…頭が痺れてきた…

993 ん…はぁ…はぁ…んっ…

994 君も早く…

995 あっ…はぁ…はぁ…

996 出すんだな？君も…

997 ああ、沢山だせ。孕ませてくれ…

998 遠慮したら許さん。

999 ん…私も…一緒に…んっ…んん…

1000

1001 //((射精))

1002 ・(疲れ気味)

1003 ::(正面5センチ)

1004

1005 はぁ…はぁ…

1006 これが…交尾…

1007 想像よりずっと刺激的な物だった…

1008 まだ余韻が抜けない…

1009 すまん、まだこうしていてくれ。

1010 君を抱きしめていないと…

1011 頭がおかしくなりそうだ。

1012 はあ…はあ…

1013 確かに、事後にはシャワーを浴びたくなるな。

1014 ふふ…分かってる、男子寮は確か

1015 シャワー室は共用だったな、私の裸体を他人に見られては君も堪<sup>たま</sup>らないか。

1016 まあ、私の体など君以外微塵も興味を持たないと思うが、

1017 精々不法侵入で追い出されるだけだ。

1018 ん…汗が…

1019 すんすん…

1020 君から私の匂いがする。

1021 ふふ…実にいい気分だ。

1022 これで君は私の物で、私は君の物だとマーキングすることができた。

1023 ああ、獣人ならば匂いで気づく。

1024 それ無しでもソリスは気づいていたみたいだが。

1025 …他の女の子の話はよそう、何故か不快な気分になってきた。

1026 性行為後のピロートークは良好な交際関係の維持には必須だろうか？

1027 私より先に寝たら許さん。

1028 ふふ…いつも私が話してばかりだったな。

1029 君から聞きたいことは沢山ある。

1030 私のどこに惹かれたのか、それはいつからか、希望の家族構成、

1031 好きな料理、式はあげるのか…

1032 ふふ…今宵は長くなりそうだ…♡

1033

1034 トラック8…二人だけの凱旋

1035

1036 …(正面15センチ)

1037 …(主人公の待っている家に帰る)

1038 // (同棲を始めて半年程度)

1039

1040 ああ、ただいま。

1041 今日は書類が多くてな、少し遅れてしまった。

1042

1043 …(ハグを要求する)

1044

1045 ん…ほら、最初にすることがあるだろ。

1046

1047 …(右耳5センチ)

1048

1049 はあ…これがあるから頑張れる。

1050 ふふ…

1051

1052 …(正面10センチ)

1053

1054 よし、満足した。

1055 しかし…やはり良いものだな、帰る家に人がいると言うのは。

1056 だが、今日で一度終わりだ。

1057 率直に言うとかビになった。

1058 特殊作戦部隊は解散、ついでに私も。という事だ。

1059 先に夕食を済ませたい、作ってくれているんだろ？

1060 ああ、楽しみにしていた。頂こう。

1061

1062 // (食後)

1063

1064 ふふ…ありがとう。

1065 美味かった、こっちの方が君にはよっぽど向いている。

1066 では、今後の事含め軽く話そう。

1067 今日中に荷物をまとめてくれ。故郷へ帰ろう。

1068 実は君が辞めた数ヶ月後にソリスも辞めた。

1069 あれが精神病を罹っているのは知っていたが、

1070 何分人なにぶんの話を聞かない奴だろ？頑なに認めなかった。

1071 だが急に自主退職を申し出た。恋人に勧められた、と。

1072

1073 ・(少し誇らしげ)

1074

1075 君と一緒にだな。

1076 当然除隊できる様に手続きしたし、

1077 ついでに隔離病棟に追いやっておいた。

1078 いつ私があればに殺されるか知れた物じゃなかったからな。

1079 念の為遺書も用意していた位だ、後で燃やしておこう。

1080 だがソリス無しで、オルファンだけで組織は機能していた。

- 1081 私は彼女の身体検査をたまにするだけで良かった、実に割のいい仕事だ。
- 1082 君と違って傷一つ作らないし、口も聞かんからな。
- 1083 少々退屈でもあったが…
- 1084 終われば君に会える。ふふ…
- 1085 しかし…
- 1086 あれはただの孤児じゃない、体の作りが獣人にしても頑強すぎる。
- 1087 まだ発展途上の体でだ、発育も途中だろう。私やソリスと違ってな。
- 1088 身辺調査や血液検査の結果は全て黒塗りされていた。
- 1089 POCHE(ポチ)シリーズかと疑ったが、
- 1090 ルイナと接点がない上に本人すら自身の出生を把握してなかった、
- 1091 POCHEシリーズであれば過酷な調教を覚えているはず…
- 1092 結局何も分からん。
- 1093 年齢も不明、私の見立てでは10代後半…
- 1094 まあ、少女の年齢なんて暴くものではないか。
- 1095 …オルファンも死んだ。
- 1096 正確には殺された、軍部の計画だろう。
- 1097 素性不明の新人と敵地に赴き、その新人に殺された…と。
- 1098 その男も現地で死んだから特殊作戦部隊は全滅。

1099 そしてこの部隊は元々存在していない事になった。

1100 関係者である私もついでの除籍、口封じもされている。

1101 お陰で私の履歴には数年の空白ができたがな。

1102 二度とまともな職には就けん。

1103 どうだ、納得できたか？

1104

1105 // (主人公…納得できてない)

1106

1107 そうか。別に納得する必要はないから大丈夫だ。

1108 全て軍部の計画通りなのだろうな、無理な戦争を続けるために君らを使い捨てたんだ。

1109 しかし、戦争を続けるために戦力を失い続ける様は中々笑えるが。

1110 まあ、故郷に帰れるならそれで良いじゃないか。何も首を突っ込む事はない。

1111 そうだろう？

1112 例え帝国が敗戦してもあんな田舎では関係のない話。

1113 新しい生き方を楽しむべきだ。

1114 ふふ…

1115 故郷へ戻ったら…きつと一緒に畑仕事だろうな。

1116 本来獣人は肉体労働に向いている。

1117

1118 // (主人公…医者じゃないの?)

1119

1120 ああ、医者か。

1121 医者はなあ…そもそも医師免許を今は持っていない。

1122 履歴ごと消されてしまったからな。

1123 今更再取得をするのも手間というもの。

1124 それに、育児や家庭の方が今は興味がある。

1125 意味、わかるよな？

1126 君も過去は忘れて良い、私達は田舎で生まれた幼馴染で生涯の番。

1127 そうして生き、死ぬる事が一番の幸福に違いない。

1128 そう思うだろう？

1129 ああ、それでいい。

1130 わっさと荷造りを始めよう。

1131

1132 ・(嬉しそうに)

1133

1134 私たちが番になったと知ったら、故郷のみんなはどう思うのだろうか？

1135 驚かれるか…いや、分かりきっていた事か。

1136 ふふ…これも楽しみだ。

1137 これからも私を幸せにしてくれるんだろっな？

1138 貴方…♡

1139

1140 ボーナストラック..性癖の開示☆

1141

1142 // (前回より数ヶ月後、故郷)

1143 ・(自身の性癖を打ち明ける)

1144 ∴(正面10センチ)

1145

1146 ふう…そろそろ、腹を括るとする…か。

1147 まあ、別に大したことではないんだが…

1148 少々打ち明けづらくてな。

1149 だが、君なら受け入れてくれると信じて言おう。

1150 睡眠姦…今だとすやすやえっちと言っただろうか、実はそれに興味がある。

1151 その…協力してくれるか？

1152 勿論無理にとは言わない。

1153

1154 // (主人公…いいよ)

1155

1156 本当か！良かった…

1157 万が一君に受け入れてもらえなかったら…と不安だな。

1158 いやはや、私の番が君で本当に良かった。

1159 では、早速睡眠薬を用意しよう、その後は好きにしてくれ。

1160 これがどんな物か気になって仕方がなくてな…

1161 本当は寝ている君を私が犯したいのだが、それはまた今度でいい。

1162

1163 // (睡眠薬を飲む)

1164

1165 あむっ…

1166 ん…よっ。

1167 せっかくだ、添い寝してくれないか？

1168 その方がきつと早く寝付ける。

1169

1170 ∴ (左耳5センチ)

1171

1172 ふふ…本当に好きにしてくれていいからな？

1173 恐い〜2、3時間程度で起きるはずだ、時間はたっぷりある。

1174

1175 ・(眠そうに)

1176

1177 はあ…じゃ…後は頼んだ…

1178 ああ…後…一応…発情…気…

1179 んん…すう…んん…

1180

1181 // (寝たふり、ここから先全て内心での独り言)

1182 :(正面5センチ)

1183

1184 ふふ…まあ…意識は残ってるんだがな。

1185 あれは体が動かせなくなる薬だ。

1186 さて…意識を失った私をどうしてくれるのか…楽しみだ

1187 …これで放置されたらたまった物じゃないが。

1188 ん…これは…服を脱がしているのか？

1189 良かった、すっかり楽しんでくれるみたいだ。

1190 …初めから脱いでおけば良かったか、中々大変そうだ。

1191 …衣服の感触がない、全裸に剥いだのか…珍しい。

1192 はだけさせるのが好きなのだと思っていたが…

1193 下…手入れをしておいて正解だった。

1194 鼻息が鼠蹊部そけいぶに…一体何を…

1195 んっ…！まさか舐めてるのか！？

1196 ばかばか…！それはよせと言ったはずだろ…！

1197 交尾とは違う…独特な快感が…

1198 んっ…いい…いいんだが…彼の健康を考えると…流石に…

1199 事が済んだら叱らなくては…

1200 うう…耳を塞ぎたい…

1201 もし、勝手に舐めておいて、マズっとか

1202 臭いだのぬかしてみろ。殺してやるからな…

1203

1204 ・(残念そうに)

1205

1206 あゝ辞めてしまった…

1207 もう飽きたのか？薄情者め。

1208 いや、それでいいのだけでも…

1209 早く続きを…

1210 ん…濃い雄の匂いがする…

1211 そうか、君も脱いだんだな…

1212 ふふ…興奮してしまうじゃないか…

1213 んっ…！に、匂いが…きつとすへ目の前にある…

1214 何故顔の前に近づけるんだ…？

1215

1216 ・(少し驚いて呆れる)

1217

1218 わっ…

1219 頬ほおに押し付けるな…

1220 これだから男は…

1221 ん…そろそろか…

1222 ああ…先っぽ…擦り付けられて…

1223 あまり焦らすなよ…

1224

1225 // (挿入)

1226

1227 んっ…んん…

1228 感覚が鈍いが…恐らく挿入されているな。

1229 私が脱力しきっているからか、スムーズに事が進んでいるみたいだ。

1230

1231 // (抽送 早い)

1232 ・(嬉しそうに)

1233

1234 随分と激しい…

1235 まるで性玩具のように扱われてしまっているな。

1236 ふふ…それでいい…

1237 性欲の吐口としてこの体を利用される…

1238 これを体験したかった。

1239 なんだ…？

1240 何か言っているが…よく聞き取れん。

1241

1242 // (主人公…好き…好き…)

1243

1244 これは…ふふ…私も愛してる♡

1245 直接言ってやりたい物だが…今は口も聞けないし、実際口に出すのは照れる。

1246 気持ちは素直なんだがな。

1247 心の中ならいくらでも甘えられる。

1248 えへへ…好き♡♡

1249 ほら、もっと沢山好きと言え♡

1250

1251 ・(とろーんとした感じ)

1252

1253 んっ…そろそろ…なのか…？

1254 ああ…きつと中に出されてしまうんだ…

1255 絶対…

1256

1257 ・(ハツとした様子)

1258

1259 あ、そういえば今は発情期か。

1260 だがこいつに伝えた記憶がない。

1261 教えてやらないとな。

1262 しかし…これは孕むにはこれ以上ない機会か？

1263 一心不乱に腰を打ちつけて種付しようとしてくれているんだ。

1264 無碍にしてはいけない。どうせ伝えようがないしな。

1265 ふふ…がんばれ♡

1266

1267 ・(びっくりする)

1268

1269 ……!

1270 完全に抱きしめてられてしまった…

1271 これから射精…中出しされてしまうのか。

1272 んっ…出すのか？

1273 ふふ…沢山出してくれ…

1274

1275 // (射精)

1276 ・(いつもの冷静な感じ)

1277

1278 凄いな…これは間違いなく孕んだ。

1279 …おいおい、まさか私を放置して寝るつもりか？

1280 まあ、仕方ないか…

1281 私も動けないし起きていても退屈だ。

1282 寝るとしよう。

1283 ふう…次の目覚めが楽しみだ…♡

1284

1285

ケモミニ戦記 守 完